ボーイスカウトの縁

私は小学五年生から約五年間、ボーイスカウトに入っていた。募金や清掃などの社会貢献活動や、体の鍛錬のためのキャンプ・山登り・ハイキングといった活動が週に一回くらいのペースであった。私は運動が得意ではなく、走るのも遅ければ、山登りやハイキングをしてもすぐに動けなくなってしまい、周りの人に迷惑ばかりかけていたので、活動に参加するのが本当に苦痛だった。

繊維商社・豊島(名古屋市)の専務を務めた常川健志君(現エフリード社長)とは、ボーイスカウトで一緒の班になって以来、五十年以上の付き合いになる。彼は当時から圧倒的な体力を誇り、徹夜でハイキングをしてから、翌朝ハンドボールの大会に出場して優勝するほどの猛者で、後に慶応大学のハンドボール部でもエースとして活躍した。愛知県一宮市の中学校相撲大会で対戦し、あっさりと押し出しで敗れた苦い思い出もある。

彼とは予備校以外は、学校が一緒だったことはないのだが、今でも家族ぐるみの付き合いが続いている。ボーイスカウトの教えである「備えよ常に」の心得を守ってきたおかげか、お互いにビジネスでも大過なくここまでこられた事を本当に幸運に思っている。一緒に飲む時もその教えを守り、いつも事前に、私は肝機能維持のウコン、彼は尿酸値が上がらないよう痛風の薬を飲んでから、ビールを浴びるほど飲んでいる。

(令和元年七月二十四日　中日新聞・東京新聞掲載)